

「山梨ブランド発掘」の内容を明確に 十分な議論をして、思いを一つ

一月の塾長例会を、私は、大変楽しみにしていました。なぜならば、諸君が今年のテーマとして決めた「21世紀山梨ブランドを発掘」について、具体的な思いや取り組みの具体的な内容について、詳しく聞けると思ったからです。今まで、各期では、グループ別にテーマを決めて、個別にテーマを掘り下げてきました。それに対して、十四期生諸君は、全員が揃って同じテーマに取り組もうと言うのですから、まことに好ましいと思うと同時に、これから未来に掛けて、諸君が山梨の独自性をどのように取り上げ、アピールするか、私は大いに興味を持ちました。

煮詰めた内容を聞けなくて残念

先月の「塾生への手紙」では、「諸君が、「21世紀の山梨ブランド」をどのようにとらえるか」を、是非、一月の例会で聞かせてほしいとお願いしておきました。諸君の間で十分な議論が掘り下げられて、きっと、成熟した結論が聞けるとあって、心を躍らせながら山梨に向かったのです。しかし、残念ながら、話し合いの結論どころか、話し合った形跡さえ、余り感じられなかったのです。

発表会に二千人集まってもらうことばかりが、先走りして、「何をアピールするのか」という、肝心の思いの原点がまったく鮮明になっていませんでした。大いに失望したことは、事実であります。思いの原点が不明確であれば、先に行くほど、違いが目立ち始めるでしょう。とにかく、早急に、「私達が言う、「山梨ブランド」とは何か？」を明確にすることです。三月の例会までに大筋がまとまっていなければ、とても、そこから先のわずかな時間の中で豊かな中身のある発表は期待できません。

地域を愛することは、自分を愛すること

「山梨ブランド」とは、私達が山梨県民として、国内はもとより、世界に向け、誇りをもってアピールできるものを指すのでしょ。即ち、「山梨ブランドの発掘」は、「山梨の良さの発掘」そのものです。これからの時代、私達が国内外に自信をもって売り出せる良さは何か。実に興味深い課題であります。繰り返しになりますが、それは単なる土産物の類ではないはずです。「小笠原流礼法に代表される品位・品格」といったものも、私には、まぶしい「山梨ブランド」に見えます。「恵まれた水を利用した最高級のウイスキー」もまた、今の時代なら、大きな訴求点でしょう。

このテーマは、諸君の鋭い時代感覚を問い掛けるものです。自ら住む地域の良さに気付くことは、そのまま、「自分の良さに気が付くこと」につながります。次回の例会では、是非、「山梨ブランド」について核心を衝く議論の結論を聞かせてください。